

議員管外研修

交通インフラの重要性を再認識

平成30年7月19日～20日：北海道（七飯町）・（森町）「移住定住対策」「地域ブランド」

七飯町

七飯町は、函館市のベッドタウンとして発展してきた。国勢調査では2015年に初めて人口が減少に転じたが、社会増減では転入が転出を200人程度上回っている。北海道新幹線の関連会社の進出により新たな雇用の場が創出されたことや、子育て環境や住環境の充実、移住者への優遇措置、自然環境の豊かさなどが要因と思われる。



森町

森町は、古くから大手の水産物加工業の工場などがあり、雇用が安定している。いかめし発祥の町であるが、町の知名度は意外と低く、統一したロゴマークを活用し、知名度を上げる取り組みを行っている。「日本の紅（あか）をつくる町」を推進する当町にも参考になるものである。



もりまち

(ロゴマーク)

まとめ

北海道新幹線の開通による交通条件、利便性の変化の影響を大きく受けているようであり、移住定住の推進にあたっては、交通インフラの重要性を感じた。東北中央道が開通されたが、本町も陸の孤島とならないよう、有効な施策展開が必要である。

議会広報特別委員会研修

わかりやすい表現を

平成30年9月28日～29日:福島県浅川町

浅川町議会は、平成29年度全国広報コンクールで奨励賞を受賞した。

読んでもらえるよう、難しい表現は使わず、平易な短い表現にする工夫をしているとのことである。

親しみのもてる広報誌づくりは、今後の参考に



議会運営委員会研修

タブレット議会の効果と課題

平成30年8月21日～22日:秋田県(五城目町)・(三種町)

五城目町では、平成28年6月議会からタブレット端末を導入している。招集通知等のペーパーレス化による経費削減の効果はあるが、突発的な対応が難しいなど、検討すべき課題もあると思われた。

子どもの居場所づくり

三種町では、医療関係NPOによる学習支援・引きこもり対策として「子ども・若者総合相談センター」を設置し、子どもの居場所づくりが行われている。今後の参考になった。

当町の施策の検討に役立てていきたい。

表紙

白鷹。パワー、全開！
白鷹中サッカー部

「本気で取り組んだ者こそが、本物の勝者、本物の社会人になれる」夕刻の練習場に響く監督先生の声。彼らは真剣にスポーツに励むことで、社会人になるための練習を積んでいきます。

地元出身者だけで部員を構成する町立の中学校が全国大会に出場するのは、きわめて稀なことです。また、陸上部からも全国大会出場を成し遂げました。

